SAKURAKO COMMUNICATION PAPER

さくら湖だより

No.101
平成18年3月

発　行
国土交通省 東北地方整備局
三春ダム管理所
〒963-7722
福島県田村郡三春町
大字西方字中ノ内403-4
TEL0247-62-3145

春風そよぐさくら湖

春田大橋は三春の「春」をイメージしてつくられたPC斜張橋で、さくら湖のシンボルとして親しまれています。

今月のお知らせ

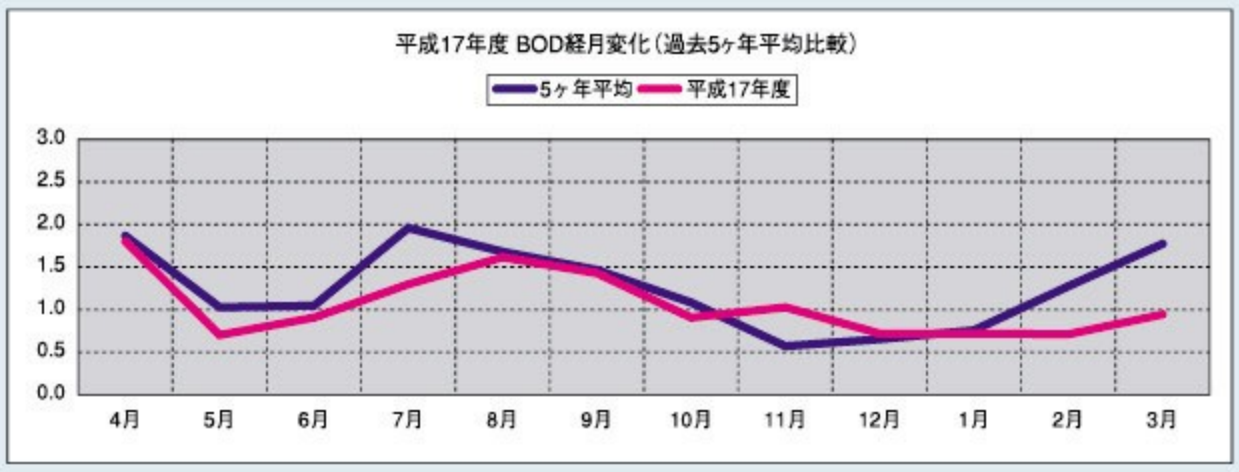
春の物産展

4月1日（土）～5月7日（日）まで

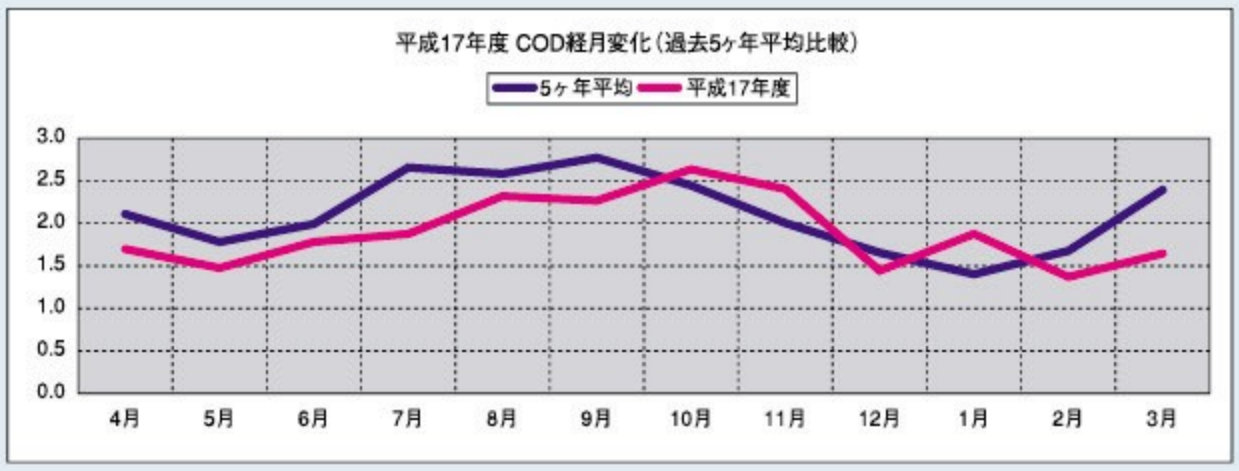
三春ダム資料館では、5月7日まで「春の物産展」を開催しています。
お近くへお越しの際には、お寄りください。

● 三春ダムでは、資料館（1階・展示ギャラリー）へ展示する作品を募集しています。●

平成17年度　さくら湖の水質の状況



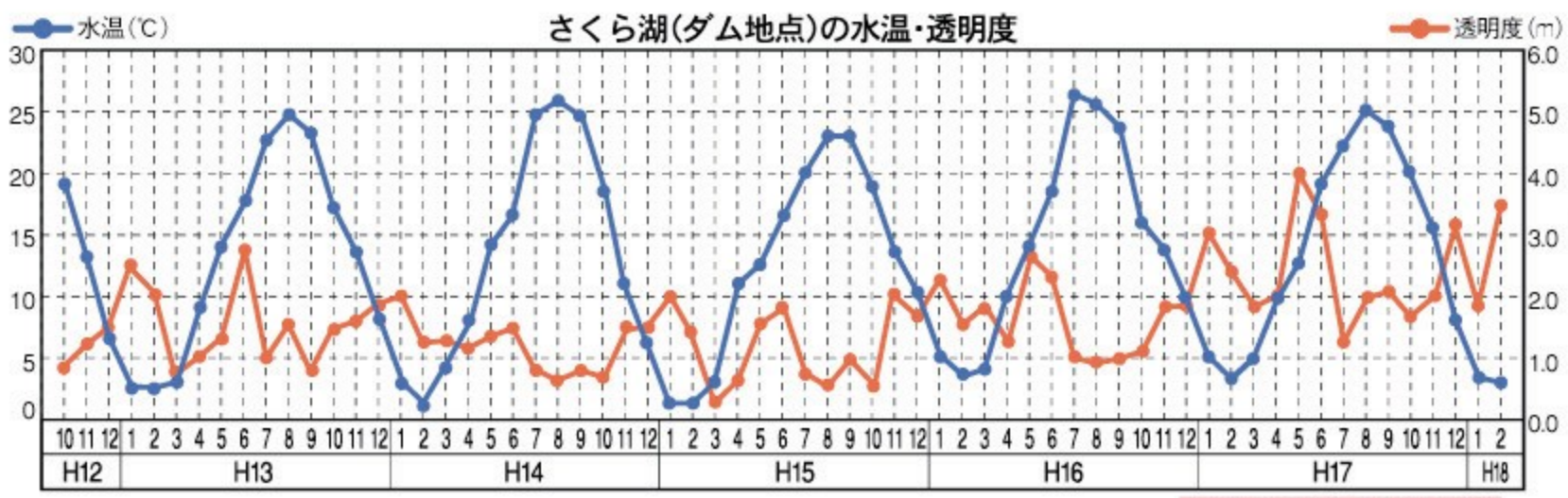
さくら湖の特徴として、例年春と夏には数値が上昇します。これは、表層に繁殖する藻類の呼吸によるものと考えられます。藻類呼吸による酸素消費は、本来のBODとは異なりますので、湖などの藻類が繁殖しやすい水域の汚濁指標としては、CODが用いられます。平成17年は、梅雨末期に出水が少なかったため、湖に栄養が流入・拡散されず、藻類の繁殖は穏やかなものでした。そのため、夏期に激しい数値の上昇は起こらず、過去平均値に比較して低い値で推移しました。現在、貯水池内では珪藻類メロシラが優先藻類となっておりますが、例年の繁殖藻類キクロテラと異なり、3月調査現在では数値の上昇は緩やかなものとなっています。貯水池内では今も藻類の餌となる窒素・リンは残存しており、今後あらためてキクロテラが増殖し、数値の上昇を引き起こすのか、現在の優占種メロシラが餌を食い尽くし穏やかな変動をしていくのかを注視していくものです。



春と夏に数値の上昇が見られるのは、BODと同様の理由によるものです。BOD同様、梅雨末期の出水が小規模であったため、餌となる窒素・リンが枯渇し、藻類の繁殖が穏やかなものとなりました。10月・11月の調査時は若干の降雨の後であったため数値が上昇していますが、全体に低めの値で推移していたと言えます。BOD同様、現在貯水池内では珪藻類メロシラが優先藻類となっており、例年の繁殖藻類と異なっております。今後優占種の推移があるのか注視していくものです。

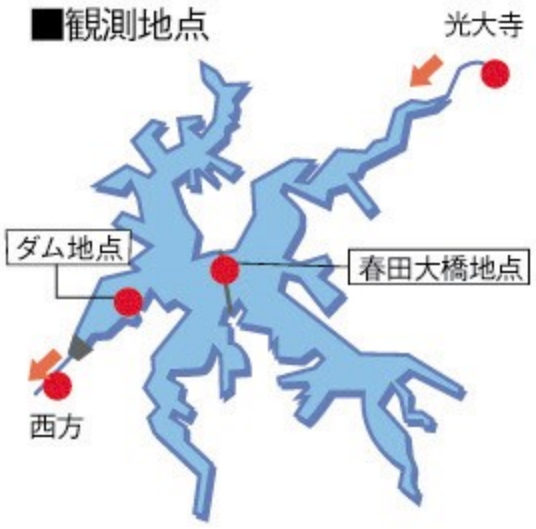
水質の状況（平成18年2月14日現在）

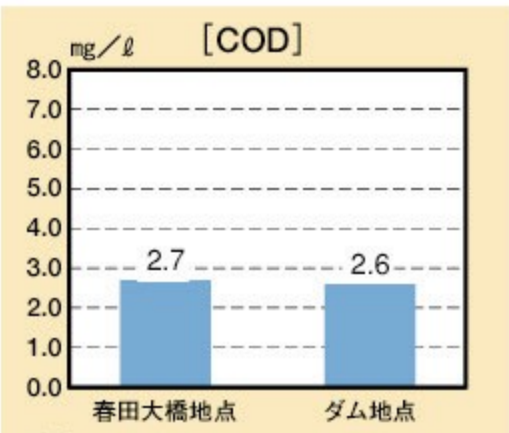
三春ダム管理所では、さくら湖や大滝根川の水質を定期的に観測しています。



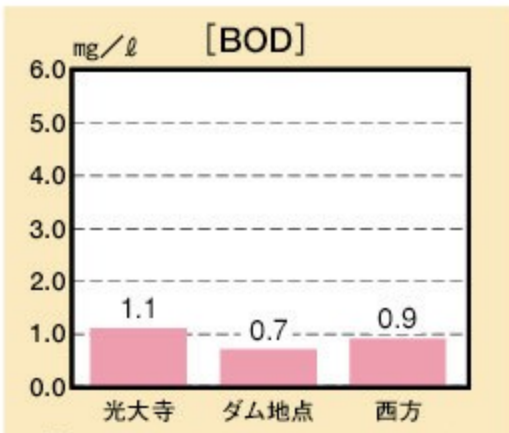
※18年1月17日の値は濁度からの換算値

■観測地点



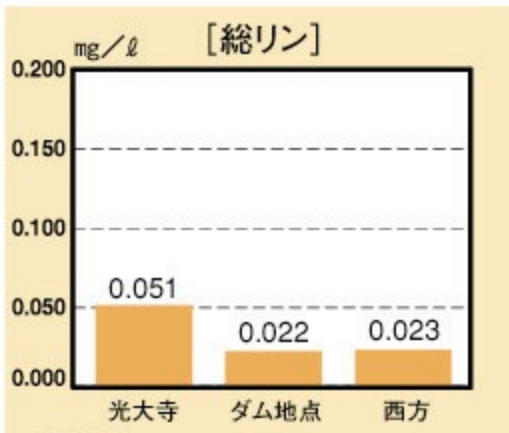


■COD（化学的酸素要求量）
コイ・フナ類が生息するためには5mg/ℓ以下が適当とされています。
※全層平均値



■BOD（生物化学的酸素要求量）
大滝根川では2mg/ℓ以下とされています。また、コイ・フナ類が生息するためには5mg/ℓ以下が適当とされています。　<0.5は0.5mg/ℓ以下

■総窒素
一般に窒素が0.15mg/ℓ以上あると富栄養化するとされています。



■総リン
一般にリンが0.02mg/ℓ以上あると富栄養化するとされています。

三春ダムからのお知らせ

三春ダムでは、皆様のご意見や情報の提供をお待ちしています。

郵便またはFAXで　〒963-7722　福島県田村郡三春町大字西方字中ノ内403-4
国土交通省　三春ダム管理所　FAX 0247-67-3170

■インターネットでも、さくら湖だより・さくら湖管理ニュースを見ることができます。
ホームページアドレス http://www.thr.mlit.go.jp/miharu/

■郡山東I.Cから車で約15分
■郡山駅から車で約20分
■三春駅から車で約10分

お願い　ダム下流での釣り、水遊びなど河川利用される方は、気象情報・放流情報に十分注意をお願いします。